

大正大学本『源氏物語』「蓬生」「関屋」の翻刻

魚尾孝久
由井恭子

翻刻の経緯

- 一 本翻刻は、大正大学附属図書館によって貴重書画像として公開（ホームページ）されている大正大学本源氏物語を、パソコン教室でのリーディングの形式によって授業に取り入れたものである。
- 一 翻刻は、平成二十年より日本語日本文学コースの授業「古典文学研究」における翻刻を基にして、それぞれ巻別の翻刻担当者によって精査したものである。
- 一 翻刻にあたっては、学習研究のためであるので、変体仮名の字母漢字も並列表記したところに特色がある。
- 一 当該授業は現在もおこなわれており、翻刻されたものは順次公開していく。

大正大学本源氏物語翻刻凡例

一 本翻刻は、大正大学附属図書館貴重書画像公開（ホームページ）から翻刻し、不明瞭なところは原本と照合する方法によった。

一 翻刻における頁の表記は、検索の便宜を図るため、ホームページにおける頁数を使用した。

例【桐壺】 5

一 翻刻にあたっては、「変体仮名字母漢字（青色）」と「平仮名（黒色）」を並列表記した。

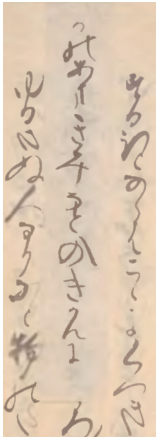
例 以徒蓮乃御時尔可女御更衣安末多左不良

いつれの御時にか女御更衣あまたさふら

一 附箋によって添付されている場合は、ホームページにしたがい、附箋のみの頁と本文の頁とにわけて翻刻をした。

例 附箋（可能安万幾美奈止乃幾可无尔）

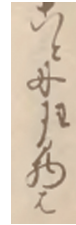
（かのおまきみなどのきかんに）



一行間の文字および補入文字は（ ） □にて本文に入れた。

例 古止丹尔(王) 留物者

ことに(わ)る物は



民部少輔イ乃

民部少輔イの



一 見せ消ちは、そのまま表記して、「||」取り消し線を伏した。

例 「かゆ」

一 字母漢字は、旧字と略字が混用されているが、翻刻にあたっては通行体表記とした。

例 「禮」↓「礼」 「傳」↓「伝」

一 漢字は、旧字体と略字体とが混用されているが、通行体表記とした。

例 「國」↓「国」 「繪」↓「絵」

「哥」↓「歌」 「佛」↓「仏」

「聲」↓「声」

一 当て字は、そのまま表記した。

例 「さか月」(杯) 「伊与」(伊予)

一 当翻刻における巻別の担当責任者は、次の通りである。

「蓬生」 魚尾 孝久

「関屋」 由井 恭子

(魚尾 孝久)

蓬
生

大正大学本『源氏物語』「蓬生」
「関屋」の翻刻

五

【蓬生】 6

毛之保堂連徒、王比給比之頃本比宮己尔毛
もしほたれつゝ、わひ給ひし頃ほひ宮こにも

左満く、於本之奈氣久人於保可里之遠
さまくおほしなけく人おほかりしを

佐天裳我御身乃与里所安留八比登閑多能
さても我御身のより所あるはひとかたの

思己楚久流之氣奈里之可二条能宇遍奈止毛
思こそくるしけなりしか二条のうへなとも

能止也加尔天旅能御寸三可越毛於保川可奈閑良須
のとやかにて旅の御すみかをもおほつかなからず

幾古衣加与比堂末比川、久良為遠左里給部留加利
きこえかよひたまひつゝ、くらみをさり給へるかり

乃御与楚比遠毛堂計乃己能世乃宇起布之越
の御よそひをもたけのこの世のうきふしを

止幾く、尔徒氣天安川可比幾己衣給婦尔奈久
ときくにつけてあつかひきこえ給ふになく

佐女堂末不事裳安里氣无中く其可寸止人
さめたまふ事もありけん中く其かすと人

【蓬生】 7

尔毛志良礼春堂知和可礼堂末比之本登乃御
にもしられすたちわかれたまひしほと御

安里左満遠毛与楚乃事仁於毛比屋利給人く
ありさまをもよその事におもひやり給人く

農志多能心久多起堂末不多久比於本閑利比多知
のしたの心くたきたまふたくひおほかりひたち

乃宮農君八知、美己乃宇勢給尔之奈己里仁又
の宮の君はち、みこのうせ給にしなこりに又

於毛比安川可婦人裳奈幾御身尔天以美之宇心保
おもひあつかふ人もなき御身にていみしう心ほ

楚希奈梨之遠思可計奴御己登能以天幾天
そけなりしを思かけぬ御ことこのいてきて

登布良比幾己衣給事堂衣左里之越以可女之幾
とふらひきこえ給事たえさりしをいかめしき

御以幾本比尔己楚己登尔毛安良須者可那幾本登
御いきほひにこそことにもあらずはかなきほと

農御奈左気波可梨登於保之堂里之可登未知
の御なさはかりとおほしたりしかとまち

【蓬生】 8

宇氣給布堂毛登能世末起尔八大空能本之農
うけ給ふたものとせまきには大空のほしの

比可利越堂良以乃水尔宇徒之多流心知之天須己之
ひかりをたらいの水にうつしたる心ちしてすこし

給之本登耳閑、流世乃左者起以天幾天奈部
給しほとにかゝる世のさはきいてきてなへ

帝能世宇久於本之三多礼堂流也尔天遠久
ての世うくおほしみたれたるやうにて遠く

於八之末之仁志能知布利者部天志毛盈尋幾己盈
おはしましにしのちふりはへてもえ尋きこえ

給者寸楚能奈己利尔志八之波奈久く、裳須久之
給はすそのなこりにしはしはなくくもすくし

堂末比之遠年月布流末、仁安八礼尔左比之幾御
たまひしを年月ふるま、にあはれにさひしき御

安利左満奈利婦留幾女者良那止八以天也以登久池
ありさまなりふるき女はらなどはいてやいとくち

於之幾御寸久世成氣利於保衣須神本止計
おしき御すくせ成けりおほえす神ほとけ

【蓬生】 9

乃安者礼堂万部良武也宇奈梨之御心者部尔加、留のあはれたまへらむやうなりし御心はへにかゝる

与春可毛人八以天於者須留物奈利氣梨登安里
よすかも人はいておはする物なりけりとあり

加多宇美多天末川里之越大可多乃世乃事止以比
かたうみたてまつりしを大かたの世の事といひ

奈可良又堂能無加多那幾御安利佐万己楚可那之
なから又たのむかたなき御ありさまこそかなし

氣礼登徒布也幾奈計久左流可多仁安里川幾堂利
けれとつふやきなげくさるかたにありつきたり

志安那多能登之比八以婦可比奈起左比之左仁免奈礼
しあなたのとし比はいふかひなきさひしさにめなれ

天須久之堂末婦遠中く須己之与川幾天奈良比尔
てすくしたまふを中くすこしよつきてならひに

希流年月尔以登多部可多久於毛比奈希久遍之
ける年月にいとたへかたくおもひなげくへし

須己之裳左天安里奴部幾人く八越乃徒可良末比里
すこしもさてありぬへき人くはをのつからまひり

【蓬生】 10

川幾天安里之越三那徒幾く尔志多可比天以幾
つきてありしをみなつきくにしたかひていき

知利奴女者良能以能知堂部奴毛安里天月日耳
ちりぬ女はらのいのちたへぬもありて月日に

志多可比天八加美之裳人可寸、俱奈久成行毛登
したかひてはかみしも人かすくなく成行もと

与里安礼堂里之宮乃宇知以登、幾川祿
よりあれたりし宮のうちいと、きつねの

春美可尔奈利天宇登末之宇氣止越幾木堂知
すみかになりてうとましよう氣とをき木たち

仁布久呂宇能聲遠朝夕仁美、奈羅之津、
にふくろうの聲を朝夕にみ、ならしつ、

人希仁己楚佐也宇乃物裳勢可礼天可計可久
人けにこそさやうの物もせかれてかけか

志希礼己堂満奈登氣之可良奴物登毛止己路衣
しけれこたまなどけしからぬ物ともどころえ

天屋宇く加多地遠安羅八之物王比之幾事能
てやうくかたちをあらはし物わひしき事の

【蓬生】 11

美敷志良奴仁末礼く能己利天左婦良布人盤
み数しらぬにまれくのこりてさふらふ人は

猶以登和利那之此春領登毛乃於毛之路幾家
猶いとわりなし此す領とものおもしろき家

川久里此無可己能宮乃己堂知遠心耳川希
つくり此むかこの宮のこたちを心につけ

帝者那知給者勢天無也登本止仁川希天安武
てはなち給はせてむやとほとにつけてあむ

奈比之申左寸流遠左也宇仁世左世天堂末比天
なひし申さするをさやうにせさせてたまひて

以登加宇物於曾呂之加良奴御寸万井尔於本
いとかう物おそろしからぬ御すまぬにおほ

志宇川呂八奈武堂知登末里左婦良布人毛
しうつろはなむたちとまりさふらふ人も

以登堂部閑多之奈登幾己遊礼登安那以
いとたへかたしなときこゆれとあない

美之也人農幾、於毛者無己登裳安里
みしや人のき、おまはむこともあり

【蓬生】 12

以氣流世耳志可那己里奈起王佐者以可、世无
いける世にしかなこりなきわさはいか、せん

閑久於曾呂之氣仁安礼者天奴連登於也
かくおそろしけにあればぬれとおや

乃御可氣止万里堂流心知寸流布留起春美
の御かけとまりたる心ちするふるきすみ

可登思婦尔那久左美天己楚安礼登宇知奈幾
かと思ふになくさみてこそあれとうちなき

津、於本之裳可計春御天宇登毛、以登
つ、おほしもかけす御てうとも、いと

己堂以尔奈礼堂留可武可之也宇尔天宇流八之幾
こたいになれたるかむかしやうにてうるはしき

越奈万毛能、遊部志良無登思部留人佐留毛能
をなまもの、ゆへしらむと思へる人さるもの

盈宇之天和左登楚乃人可乃比止尔世左世給
えうしてわざとその人かのひとにせさせ給

遍留登堂川祢幾、天安無奈以寸留毛於乃徒可良
へるとたつねき、てあむないするもおのつから

【蓬生】 13

閑、流末川の幾安多里登於毛比安那川利天以比かゝるまつしきあたりとおもひあなつりていひ

久類遠連以乃女房以可、盤世無楚己曾八与能川くるをれいの女房いかゝはせむそこそはよのつ

祢乃事止天登利末起良八之徒、女尔知閑幾ねの事ととりまきはしつゝめにちかき

氣不安寿能美久流之左越徒久呂者武登春流登けふあすのみくるしさをつくるはむとする

幾毛安留越以美之字以左女給比天見与登於毛比多きもあるをいみしういさめ給ひて見よとおもひた

末比天己楚志越可世堂末比氣女奈登天可加呂くまひてこそしをかせたまひけめなとてかかろく

之起人能家乃可左里登八奈左無奈起人乃しき人の家のかさりとほなさむなき人の

御保以堂可者無可安八礼奈流事登能多末比御ほいたかはむかあはれなる事とのたまひ

天左流王左八世左勢給者寸波可那幾己登尔天てさるわさはせさは給はずはかなきことにて

【蓬生】 14

裳美止婦良比幾己遊留人八奈起御身也堂、御もみとふらひきこゆる人はなき御身也た、御

世宇登乃世无之乃君八閑利曾末礼尔毛京仁せうとのせんしの君はかりそまれにも京に

以天給布時八左之能曾幾堂末部登曾礼毛世いて給ふ時はさしのそきたまへとそれも世

尔奈起布流女幾人尔天於奈之幾本宇之登以不になきふるめき人にておなしきぼうしといふ

中仁裳堂川幾奈久此世越者那連堂留比之中にもたつきなく此世をはなれたるひし

里仁毛能之給天志氣幾草与毛幾越堂仁可起りにももし給てしけき草よもきをたにかき

者良八无物止毛於毛比与利堂末八寸加、累末、耳はらはん物ともおもひよりたまはずかゝるまゝに

安左知八庭能於毛、美衣須志氣起与毛起八軒遠あさは庭のおも、みえずしけきよもきは軒を

阿良曾比天於以乃本留無久良八丹之比無可之能見あらそひておいのほるむくらはにしひむかしのみ

【蓬生】 15

可登越登知己女堂流楚多能毛之氣礼止久川
かをとちこめたるそたのもしけれとくつ

礼閑知奈留可幾遠武万宇之奈登乃布三奈良
れかちなるかきをむまうしなどのふみなら

志多流美知尔天春夏仁奈礼八者那知加宇安氣未
したるみちにて春夏になれははなちかふあけま

幾乃心左遍楚免佐末之起八月野分安良可里之
きの心さへそめさましき八月野分あらかりし

年羅宇登毛、堂宇礼布之志毛能屋登毛者可那幾
年らうとも、たうれふしものやともはかなき

以多婦幾奈利之奈登八保祢能三王川可尔能己里天
いたふきなりしなどはほねのみわつかにのこりて

堂知登末流氣須多耳奈之氣不利堂衣天安八礼
たちとまるけすたになしけふりたえてあはれ

尔以美之幾事於保可梨奴春人奈止以婦比多婦
にいみしき事おほかりぬす人などいふひたふ

流心安流物毛於毛比也里乃左比之氣礼八尔也己能
る心ある物もおもひやりのさひしければにやこの

【蓬生】 16

宮遠八婦与宇能物尔布三寸起天与里己左里氣
宮をはふようの物にふみすきてよりこさりけ

礼八閑久以美之起能良也宇奈礼登毛左寸加丹
れはかくいみしきのらやうなれともさすかに

志無天无能宇知波可利八安里之御志川羅比
しむてんのうちばかりはありし御しつらひ

閑者良須徒屋、閑仁加以者起奈登寸流比止
かはらすつや、かにかいはきなとするひと

毛那之知里八徒毛礼登満幾累、事奈起宇
もなしちりはつもれとまきる、事なきう

流者之起御須万井尔天安可之久羅之給不
るはしき御すまぬにてあかくらし給ふ

者可那幾布流歌物可多里奈登也宇能春左美
はかなきふる歌物かたりなどやうのすさみ

事尔天己楚川礼く、遠毛末起良八之思日奈久
事にてこそつれくをもまきはし思ひなく

佐無流王左奈女礼左也宇能古登尔毛心遠楚久
さむるわざなめれさやうのことにも心をそく

【蓬生】 17

毛能之給婦和左登己乃末之加良祢止於乃徒可良
ものし給ふわさこのましからねとおのつから

又以楚久事那幾保止八於奈之心奈流婦三加与
又いそく事なきほとはおなし心なるふみかよ

八之奈登宇知之天已楚和可幾人八木草仁川
はしなとうちしてこそわかき人は木草につ

希天裳心遠奈久左女堂末不遍希連登於也乃
けても心をなくさめたまふへけれとおやの

毛天可之徒幾給比之御心遠幾天能末、仁世乃中
もてかしつき給ひし御心をきてのまゝに世の中

越川、末之起物尔於本之天末礼尔裳古登可与之
をつ、ましき物におほしてまれにもことかよひ

給不遍幾御安多里越毛左良仁奈礼堂末八寸布
給ふへき御あたりをもさらになれたまはずふ

里仁堂累美津之安希天加良毛里者己也能登
りにたるみつしあけてからもりはこやのと

之閑久也姫農物可多利乃惠耳加幾堂累
しかくや姫の物かたりのゑにかきたる

【蓬生】 18

越曾登幾く能末左久里物尔志堂末婦布流哥
をそときくのまさくり物にしたまふふる哥

登帝毛於可之幾屋宇仁盈利以天堂以越毛与美
とてもおかしきやうにえりいてたいをもよみ

人遠毛安良八之心衣堂累已楚見所裳安里希
人をもあらはし心えたるこそ見所もありけ

礼宇累者之起可無也可美三地農国閑美奈登
れうるはしきかむやかみみちの国かみなと

乃布久堂女流尔不類事登毛乃女奈礼堂流奈
のふくためるにふる事ともめなれたるな

登八以登須左末之氣那留遠勢女天奈可女給不
とはいとすさましけなるをせめてなかめ給ふ

於里く盤比幾比呂氣多末婦以万農世乃
おりくはひきひろけたまふいまの世の

人農須女類幾也宇宇知与美於己奈比奈登以布
人のすめるきやううちよみおこなひなといふ

事盤以登者川可之久志給天三多天末川留人
事はいとつかしくし給てみてまつる人

【蓬生】 19

裳奈計連登須、奈登止利与世給八春可也字耳
もなけれとす、なとりよせ給はすかやうに

宇累者之久楚毛能之壹末比希留待奈止比比之
うるはしくそのしたまひける侍従などいひし

御女能登己能美己楚年比安久可礼者天奴物尔天
御めのとこのみこそ年比あくかれはてぬ物にて

左婦良比川連登閑与比末比里之齋院宇勢
さふらひつれとかよひまひりし齋院うせ

給比奈登之天以登堂部可多久古、路本曾幾耳
給ひなとしていとたへかたくこゝろほそきに

此姫君能者、北乃方乃者良加良世仁於知布礼天
此姫君のは、北の方のはらから世におちふれて

春里也宇能幾堂能可多仁成給部流安利希利武春女
すりやうのきたのかたに成給へるありけりむすめ

登毛閑之川幾帝与呂之幾和可人登毛、無氣尔
ともかしつきてよろしきわか人とも、むけに

志良奴所与里於也登毛、末宇天可与比之越登思天
しらぬ所よりおやとも、まうてかよひしをと思て

【蓬生】 20

止起く、以幾可与婦己能姫君八加久入宇止起御久世
ときく、いきかよふこの姫君はかく人うとき御くせ

奈礼八武川末之久裳以比加与比給八寸速能連遠
なればむつましくもいひかよひ給はすをのれを

八於登之女給天於毛天布世仁於本之多里之可八
はおとしめ給ておもてふせにおほしたりしかは

姫君乃御安利様乃心久類之氣奈流裳盈止婦
姫君の御あり様の心くるしけなるもえとふ

羅比幾己衣寸奈登奈万尔久希奈累古止葉登
らひきこえすなどなまにくげなること葉と

毛以比幾可世徒、時く、幾古衣希利毛登与里安里
もいひきかせつ、時く、きこえけりもとよりあり

川幾堂流左也宇能奈美く、能人盤中々々起
つきたるさやうのなみく、の人は中々よき

人乃末祢耳心越川久呂比思安可累毛於保可留
人のまねに心をつくろひ思あかるもおほかる

遠也武己止那幾須知那可良裳加宇末天於津部幾
をやむことなきすちなからもかうまでおつへき

【蓬生】 21

須久勢安里希礼八尔也心須己之奈越く之起御遠
すくせありければにや心すこしなほくしき御を

者尔楚安利希累和可、具於登利乃様尔天安那
はにそありけるわか、くおどりの様にてあな

徒羅者之久思者礼堂利之越以可天閑、流世能
つらはしく思はれたりしをいかてかゝる世の

春衛仁己乃君遠和可武寸女登毛乃徒可比人耳
す系にこの君をわかむすめとものつかひ人に

奈之天志可那心者世奈登乃布留比多流可多己楚
なしてしかな心はせなどのふるひたるかたこそ

安連以登宇之路也春起宇之路三奈良武止於毛比
あれいとうしるやすきうしるみならむとおもひ

天時く古、仁王多良勢給比天御己登乃祢毛
て時くこゝにわたらせ給ひて御ことのねも

宇計堂万者良末本之可流人奈無侍留登幾己
うけたまはらまほしかる人なむ侍るときこ

盈氣里己能侍從毛川祢耳以比毛与越世止人
えけりこの侍従もつねにいひもよをせと人

【蓬生】 22

仁以止武心尔波安良天堂、己知多起御物川、美奈礼
にいとむ心にはあらてた、こちたき御物つ、みなれ

盤左毛無川比給者奴越祢多之登奈武於毛比希留
はさもむつひ給はぬをねたしとなむおもひける

閑、流本止耳加乃家安累之大仁、奈里奴武春免
かゝるほとにかの家あるし大に、なりぬむすめ

登毛安留部幾左満尔美遠起天久多里奈無須
ともあるへきさまにみをきてくたりなむとす

己乃君遠猶毛以左那者武乃心布可久天者流加耳閑
この君を猶もいさなはむの心ふかくてはるかにか

具末可里奈无登春累仁心保曾幾御安利佐万
くまかりなんとするに心ほそき御ありさま

能川祢尔之裳止婦良比幾古衣祢止知可起堂乃
のつねにしもとふらひきこえねとちかきたの

美侍利川留本登己楚安礼以登安八礼耳宇之呂女多
み侍りつるほとこそあれいとあはれにうしるめた

久奈登古登与加流遠佐良尔宇氣比幾堂万八祢
くなどことよかるをさらにうけひきたまはね

【蓬生】 23

者安那尔久古登く之也心悲止川尔於保之安可流登毛
はあなにくことくしや心ひとつにおほしあかるとも

左累也宇者良仁年遍給布人遠大将殿毛屋無
さるやうはらに年へ給ふ人を大将殿もやむ

己止那久志毛於毛比幾己衣堂末八之奈登衣无之字
ことなくしもおもひきこえたまはしなどえんしう

氣比希利佐留保止尔氣仁世中仁遊留左礼給比
けひけりさるほとにけに世中にゆるされ給ひ

天宮己仁可遍利給登安女能志多乃与路己比尔天
て宮ごにかへり給とあめのしたのよろこひにて

堂知左八久和礼毛以可天人与里左起尔布可幾心
たちさはくわれもいかて人よりさきにふかき心

左之越御覽世良礼武登乃美於毛比幾遠不於登
さを御覽せられむとのみおもひきをふおと

己女耳川氣天堂可起遠毛久多礼留越毛人農
こ女につけてたかきをもくたれるをも人の

心者遍遠美給不仁安八礼耳於本之志累古止左満く
心はへをみ給ふにあはれにおほしすることさまく

【蓬生】 24

奈利可也尔安者多志幾保登耳左良仁於毛比以天
なりかやうにあはたしきほとにさらにおもひいて

給布希之起美衣天月日遍奴以万八加起利奈奈
給ふけしきみえて月日へぬいまはかきりなり

氣利年己呂安良奴佐万奈流御左満遠加那之宇
けり年ころあらぬさまなる御さまをかなしう

以見之幾己止越於毛比奈可良毛盈以川留春仁安比
いみしきことをおもひなからもえいつる春にあひ

給者奈武登祢无之王多里川連登多比之加八良
給はなむとねんしわたりつれとたひしかはら

奈登末天与呂己比思婦奈流御久良為安良堂末里
なとまでよろこひ思ふなる御くらゐあらたまり

那止須留越与楚仁乃三間遍支奈利氣利可那志
なとするをよそにのみ聞へきなりけりかなし

閑里之於里能宇礼之左盤堂、我身比止川
かりしをりのうれしさはた、我身ひとつ

乃多女仁奈礼流登於保衣之加比那幾世可那
のためになれるとおほえしかひなき世かな

【蓬生】 25

登心久多氣天徒良久可奈之希連八人志礼春
と心くたけてつらくかなしければ人しれず

称遠能三奈起給不火武乃北乃可多左礼者与
ねをのみなき給不火武の北のかたされはよ

未左仁閑久多川幾那久人王呂幾御安利左万越閑
まさにかくたつきなく人わろき御ありさまをか

須末部給不人八阿利奈無也仏比之里毛徒三閑
すまへ給ふ人はありなむや仏ひしりもつみか

路幾越己楚美知比幾与久志多末不奈礼閑、類
ろきをこそみちひきよくしたまふなれかゝる

御安里佐万尔天猶堂計久世乃中越於保
御ありさまにて猶たけく世の中をおほ

志宮乃宇遍奈登乃於者勢之時乃末、仁奈良比
し宮のうへなどのおはせし時のまゝにならひ

給部流御心於己利能以登於之起古止く、以登於己
給へる御心おこりのいとおしきことく、いとおこ

加万之氣仁思日天猶於毛本之堂知称与能浮
かましげに思ひて猶おもほしたちねよの浮

【蓬生】 26

時八美衣奴山知遠己楚八堂川奴奈礼為中奈登八
時はみえぬ山ちをこそはたつぬなれぬ中などは

武川可之幾物止於保之屋留良女登比多布流耳
むつかしき物とおほしやるらめとひたふるに

人王路氣仁盤与毛裳天那之幾古衣之奈登
人わろけにはよももてなしきこえしなと

以登己止与具以遍八武希仁久之仁堂流女者宇
いとことよくいへはむけにくしにたる女はう

佐毛奈比幾給者奈無堂計幾己登毛安流末之幾
さもなひき給はなむたけきこともあるましき

御身越以可尔於本之天加久多天多流御心奈良無
御身をいかにおほしてかくたてたる御心ならむ

登毛登幾徒不也久侍従毛加乃火武乃遠以堂川
ともときつふやく侍従もかの火武のをいたつ

人可多羅比川幾天登、武遍久裳安良左里氣礼
人かたらひつきてとゝむへくもあらざりけれ

盤古、呂与利外仁以天堂知天見多天末川里遠
はこゝろより外にいてたちて見たてまつりを

【蓬生】 27

可無可以登心久流之起遠登天楚、能可之幾已遊
かむかいと心くるしきをとてそゝのかしきこゆ

礼止猶閑久加氣者那連天比佐之宇奈利給比
れと猶かくかけはなれてひさしうなり給ひ

奴留人耳堂能美遠可計給御心農宇知仁左利登毛
ぬる人にたのみをかけ給御心のうちにざりとも

安利遍天裳於保之以津留徒井天安良之也八安八礼
ありへてもおほしいつるつゝみてあらしやはあはれ

仁心布可起契越之給比之尔和可身八字久天閑久
に心ふかき契をし給ひしにわか身はうくてかく

王寸良礼多流尔已楚安連風乃川天尔毛和連可久
わすられたるにこそあれ風のつてにもわれかく

以美之幾安利様遠起、川計堂末八、加那良春止婦良
いみしきあり様をき、つけたまは、かならずとふら

比以天給比天武登年比於本之氣礼八於保可多
ひいて給ひてむと年比おほしければおほかた

乃御家為毛安里之与里氣仁安左末之氣礼登
の御家ぬもありしよりけにあさましけれと

【蓬生】 28

和可心毛天者可那幾御天宇登、裳登利宇之那
わか心もてはかなき御てうと、もとりうしな

者勢給八寸心徒与久於那之左満尔天祢无之
はせ給はず心つよくおなしさまにてねんし

須己之給不成介利祢奈起可知仁以登、於保之
すこし給ふ成けりねなきかちにいと、おほし

志川見堂流八堂、山人農安可起己乃見比止川
しつみたるはた、山人のあかきこのみひとつ

遠加保耳者那多奴止美衣給不御曾者女奈登八於本呂
をかほにはなたぬとみえ給ふ御そはめなどはおほろ

氣能人乃美多天末川里遊留寸遍幾尔毛安良寸閑
けの人のみたてまつりゆるすへきにもあらずか

之具者之久八幾古衣之以登越之宇物以比左
しくはしくはきこえしいとをしう物いひさ

可那幾也宇也冬仁奈利行末、仁以登、可幾川可无
かなきやう也冬になり行ま、にいと、かきつかん

加太那久可奈之氣尔奈可女須己之多末婦加乃殿
かたなくかなしけになかめすこしたまふかの殿

【蓬生】 29

尔八己院乃御礼字能御八講世中遊寸利天
にはこ院の御れうの御八講世中ゆすりて

志太末不己登耳僧奈登八奈部天乃八女左寸左盈春
したまふことに僧などはなへてのはめさすさえす

久礼於己那比尔之美堂宇登幾閑幾里越衣
くれおこなひにしみたうときかきりをえ

羅世給希礼八己乃世无之乃君万以礼給遍利
らせ給ければこのせんしの君まいり給へり

氣利可部里左満尔堂知与里給比天志可く權
けりかへりさまにたちより給ひてしかく權

大納言殿乃御八講耳満以利天侍川留奈利
大納言殿の御八講にまいりて侍つるなり

以登可之古宇以氣累浄土能可左里仁於止良寸以可
いとかしこういける浄土のかさりにおとらすいか

免之宇於毛之呂幾己止、裳乃可起利遠奈武之
めしうおもしろきことゝものかきりをなむし

給川留仏本左川農遍无氣乃身仁己楚毛能之
給つる仏ほさつへのんけの身にこそものし

【蓬生】 30

給女礼以徒、乃仁己利婦可起世耳奈止天武末礼
給めれいつゝのにこりふかき世になとてむまれ

堂末比希武登以比天也可天以帝給奴己登須久
たまひけむといひてやかていて給ぬことすく

那耳与乃人尔、奴御安者以耳天可比奈起世乃毛能
なよの人ゝぬ御あはいにてかひなき世のもの

加多利遠堂仁衣幾古衣安八世給者寸左天裳加盤
かたりをたにえきこえあはせ給はすさてもかは

閑里川多那幾身乃安里佐万越安者礼耳
かりつたなき身のありさまをあはれに

於保川可那久天須久之給八心宇乃仏菩薩也
おほつかなくてすくし給は心うの仏菩薩や

登徒良宇於保也流遠氣仁可起利奈女利登屋宇く
とつらうおほやるをけにかきりなめりとやうく

於毛婦奈利給耳大尔乃北能方仁八可尔幾堂利
おもふなり給に大にの北の方にはかきたり

連以者左之裳武川比奴遠左曾比多天末川
れいはさしもむつひぬをさそひたてまつ

【蓬生】 31

羅無乃心尔天堂天末川留遍幾御左宇梵久
らむの心にてたてまつるへき御さうそく

奈登帝宇之天与起車仁能利天於毛、地氣之幾
なとてうしてよき車にのりておも、ちけしき

本已利可尔物於毛比奈計那留佐万之天遊久利毛那久
ほこりかに物おもひなげなるさましてゆくりもなく

者之里幾天門安氣左須留与里人王呂久左比之
はしりきて門あけさするより人わろくさひし

幾古登可起利毛那之比多里美幾能登毛三那与路
きことかきりもなしひたりみきのともみなよろ

保比堂宇礼尔氣礼八遠能己登毛多寸希天登可久
ほひたうれにければをのこともたすけてとかく

安希佐八久以徒連可己乃左比之幾也登耳裳閑
あけさはくいづれかこのさひしきやともか

那良春和氣多流安登阿奈留美川農道登堂
ならずわけたるあとあなるみつのだとた

登留王川可尔美奈美於毛天乃可宇之安氣堂流尔
とるわつかにみなみおもてのかうしあけたるに

【蓬生】 32

与世堂礼者以登、者之堂那之止於本之堂礼
よせたれはいと、はしたなしとおほしたれ

登安左末之宇須、氣多流木丁佐之以天、侍從
とあさましうす、けたる木丁さしいて、侍從

以天幾多里加多知奈登於止呂部尔希利登之己呂
いてきたりかたちなどおとろへにけりとしころ

以堂宇川井衣堂礼登猶毛能幾与計耳与之
いたうつゐえたれと猶ものきよけによし

安類左満之天加多之氣那久登毛止利可遍徒部
あるさましてかたしけなくともとりかへつへ

具美遊以天堂知那無己止越於毛比奈可良心
くみゆいてたちなむことをおもひなから心

久流之幾御安利左満乃三寸天堂天末川里
くるしき御ありさまのみすてたてまつり

可多起遠侍從乃無可遍仁奈武末以利多流心宇久
かたきを侍從のむかへになむまいりたる心うく

於本之遍多天、御美川可良己楚安可良左満尔毛
おほしへたて、御みつからこそあからさまにも

【蓬生】 33

王多良勢給者祢己乃人越堂仁由留左世給部
わたらせ給はねこの人をたにゆるさせ給へ

登天奈武奈登加宇安者礼希奈流佐万仁盤
とてなむなとかうあはれけなるさまには

止天宇知裳那久遍幾楚可之左礼登由具
とてうちもなくへきそかしされとゆく

道耳心遠屋利天以登古、知与気也己宮於
道に心をやりていとこ、ちよけ也こ宮お

者世之時遠能礼遠八於毛天布世奈利登於保
はせし時をのれをはおもてふせなりとおほ

志春帝堂里之可波宇登く之起也宇仁奈利
しすてたりしかはうとくしきやうになり

楚女尔之加登年古呂毛奈仁可者也武己登奈起
そめにしかと年ころもなにかはやむことなき

様尔於保之安可利大將殿奈登於者之満之閑
様におほしあかり大將殿などおはしまししか

与婦御春久勢能本止越閑多之希那久於毛比多
よふ御すくせのほとをかたしけなくおもひた

【蓬生】 34

未遍部羅連之可八奈武無川比幾古衣左世无毛
まへへられしかはなむむつびきこえさせんも

者、可類事於保久天須久之侍留遠世中能
は、かる事おほくてすくし侍るを世中の

加久左多女毛奈可利氣礼八可寸那良奴身八中く
かくさためもなかりければかすならぬ身は中く

心也須久侍留物奈利氣里遠与比奈久見多天満
心やすく侍る物なりけりをよひなく見たてま

川里之御安利左満乃以登可那之久心久流之
つりし御ありさまのいとかなくしく心くるし

幾越知可起保止八於己堂流於利裳能止可尔
きをちかきほとはおこたるおりのものとかに

堂能毛之久奈武侍利氣留越加久者留閑耳満可
たのもしくなむ侍りけるをかくはるかにまか

里奈無登春礼八字之路女堂久安八礼耳奈無
りなむとすれはうしろめたくあはれになむ

於保衣給布奈登加多良遍登心止計天毛以良
おほえ給ふなとかたらへと心とけてもいら

【蓬生】 35

遍給八寸以登宇礼之支事奈礼登世尔、奴へ給はすいとうれしき事なれと世に、ぬ

左満尔天奈仁可盤加宇那可良己楚久知毛宇勢女さまにてなにかはかうなからこそくちもうせめ

登奈武思者部流登乃三能多末遍八気仁之閑となむ思はへるとのみのたまへはけにしか

奈無於保左流遍氣礼止以氣流身越須天加久なむおほさるへけれといける身をすてかく

武久川氣起春末比寸流堂久比八者部良寸也むくつけきすまひするたくひははへらすや

安良武大將殿乃徒久利美可起給者無己楚八比あらむ大將殿のつくりみかき給はむこそはひ

幾可部堂満乃宇天那尔裳奈利加遍良女登八堂乃きかへたまのうてなにもなりかへらめとはたの

毛之宇盤侍礼登堂、以末八兵部卿乃宮農もしうは侍れとたゝいまは兵部卿の宮の

御武寸女与里外に心王氣堂末不可多裳那可御むすめより外に心わけたまふかたもなか

【蓬生】 36

奈利武可之与里春起く之起御心尔天猶左利尔なりむかしよりすきくしき御心にて猶ざりに

加与比給比希累所く三那於本之者那連尔堂かよひ給ひける所くみなおほしはなれにた

奈利満之天加宇物者可那幾左満尔天屋布者良なりましてかう物はかなきさまにてやふはら

仁須久之給部流人遠八心幾与久王礼遠堂能にすくし給へる人をはききよくわれをたの

美給部流安利左満登堂川祢幾古衣給不己み給へるありさまとたつねきこえ給ふこ

登以登閑多久奈武安留部幾奈登以比志良春流越といとかたくなむあるへきなといひしらすを

氣仁登於保春毛以登可那之久天徒久く登奈起けにとおほすもいとかなしくてつくくとなき

給左礼登宇古久遍宇裳安良祢八与呂川耳給されとうこくへうもあらねはよろつに

以比王川羅比久良之天佐良八侍從遠堂仁登いひわつらひくらしてさらは侍從をたにと

【蓬生】 37

日乃暮流末、仁以楚氣波心安者堂、之久天
日の暮るまゝにいそけは心あはた、しくて

奈久く、左羅八末川希婦八加不世女給不遠久利
なくく、さらはまつけふはかふせめ給ふをくり

者可里仁末宇天侍良無加乃幾古衣堂末不毛
はかりにまうて侍らむかのきこえたまふも

古登者里也末多於本之和川羅不毛左流己登耳
ことはり也またおほしわつらふもさること

侍礼八奈可尔見堂滿不流毛心久類之久奈武止志乃
侍れはなかにみたまふるも心くるしくなむとしの

比天幾己遊己能人左遍宇地須天、无登寸流遠
ひてきこゆこの人さへうちすて、んとするを

宇良女之字裳安八礼尔毛於保世登以比登、武部幾
うらめしうもあはれにもおほせといひと、むへき

加多毛那久天以登、祢遠乃三堂計幾古登耳天毛能
かたもなくていと、ねをのみたけきことにてもの

之給不加多美尔楚部給不遍幾美奈礼衣毛之
し給ふかたみにそへ給ふへきみなれ衣もし

【蓬生】 38

本奈礼多礼八登之遍奴留志留之美世給不部幾物奈久
ほなれたれはとしへぬるしるしみせ給ふへき物なく

天和可御久之乃於知堂里氣類遠登利安川女天
てわか御くしのおちたりけるをとりあつめて

加川羅耳志多末部留可九尺与者可利尔天以登幾与良
かつらにしたまへるか九尺よはかりにていときよら

奈流遠於可之氣那留者己仁入天武可之乃久能盈
なるをおかしけなるはこに入てむかしのくのえ

加宇能以登可宇者之起比登川本久之天給不
かうのいとかうはしきひとつほくして給ふ

堂遊末之起須知越堂能三之玉加川羅
たゆましきすしをたのみし玉かつら

思日能外仁可気者那連奴留古乃末、能乃多末比遠
思ひの外にかけはなれぬるこのまゝ、のたまひを

幾之己止毛安利之可八可比那幾身奈礼登毛見者天、
きしこともありしかはかひなき身なりとも見はて、

武登己楚於毛比川礼字知寸天羅留、裳己登八利
むとこそおもひつれうちすてらるゝもことはり

【蓬生】 39

奈礼登堂礼尔美遊川里天可登宇良女之宇奈武登
なれとたれにみゆつりてかとうらめしうなむと

天以見之宇奈以給不己乃人裳物毛幾古衣屋
ていみしうない給ふこの人も物もきこえや

羅春満、能由以己武者佐良尔毛幾古衣左世春年
らすまゝのゆいこむはさらにもきこえさせず年

比農志能比可多幾世能宇左越春久之侍利川留
比のしのひかたき世のうさをすくし侍りつる

尔閑久於保衣奴三知仁以左那八礼天者流可尔
にかくおほえぬみちにいさなはれてはるかに

未可里安久可類、古登止帝
まかりあくかるゝこととて

玉可川羅多衣天毛也末之遊具美知農
玉かつらたえてもやましゆくみちの

堂武希乃神裳可計天知可者無以能知己楚志
たむけの神もかけてちかはむいのちこそし

里侍良祢奈登以婦耳以徒良久良宇奈利奴登徒
り侍らねなといふにいつらくらうなりぬとつ

【蓬生】 40

布也可礼天心毛空耳天比幾以川連八部可利
ふやかれて心も空にてひきいづればかへり

美能三世良礼氣流登之己路王比川、裳遊幾
みのみせられけるとしころわひつゝもゆき

者那連左利川留人農閑久別奴留古止遠以登
はなれさりつる人のかく別めることをいと

心本曾宇於保春仁世仁毛知以良類末之起於以
心ほそうおほすに世にもちいらるましきおい

人左遍以天也古登者里楚以可天可堂知止満
人さへいてやことはりそいかてかたちとま

里給者無我良毛盈己楚祢无之者川末之
り給はむ我らもえこそねんしはつまし

氣礼登遠能可見、仁川計堂累多与利登毛思
けれどをのかみゝにつけたるたよりも思

以天、止満類末之宇於毛部留遠人王呂久幾、於
いてゝとまるましようおもへるを人わろくき、お

者寸霜月者可利尔奈礼八雪安良礼閑知尔天
はず霜月はかりになれば雪あられかちに

【蓬生】 41

外尔盤幾由留滿毛安留越朝日夕日遠布世
外にはきゆるまもあるを朝日夕日をふせ

久与毛起武久良乃可氣仁布可宇徒毛利天古之
くよもきむくらのかけにふかうつもりてこし

乃志良山思日也羅留、雪能中尔以天入志毛人
のしら山思ひやらるゝ雪の中に入れて入しも人

堂尔奈久天川礼く登奈可女給不者可那幾己止越
たになくてつれくとなかめ給ふはかなきことを

幾古衣奈久佐女奈幾三和良比三末起良八之川類
きこえなくさめなきみわらひみまきはしつる

人左遍奈久那利天与類毛知利加末之幾御知也宇
人さへなくなりてよるもちりかましき御ちやう

農宇知毛閑多八良左比之久物可那之久於保左
のうちもかたはらさひしく物かなしくおぼさ

流閑乃登乃耳八女徒良之起尔以登、物左八閑
るかのとのにはめつらしきにいとゝ物さはか

之起御安利佐万尔天以登也武己登那久於保
しき御ありさまにていとやむことなくおほ

【蓬生】 42

左礼奴止己呂く仁盤和左登毛盈遠登川連多
されぬところくにはわさともえをとつれた

滿者寸末之天楚乃人八万堂世尔也於者寸良
まはずましてその人はまた世にやおほすら

武登者可利於本之以川留於利毛安連登多川
むとはかりおほしいつるおりもあれとたつ

祢給不遍幾御心佐之毛以曾可天安利婦留尔年
ね給ふへき御心さしもいそかてありふるに年

加者利奴卯月八可利仁花知留里越思日以天幾
かはりぬ卯月はかりに花ちる里を思ひいてき

古衣給比天堂以乃宇部尔御以登末幾古衣天忍
こえ給ひてたいのうへに御いとまきこえて忍

比天以帝給不日己呂布利川留奈己利能雨以万
ひていて給ふ日ころふりつるなこりの雨いま

須己之楚、起天於可之起本止仁月佐之以天多
すこしそゝきておかしきほとに月さしいてた

里武可之乃御安利幾於保之以天羅連天衣武
りむかしの御ありきおほしいてられてえむ

【蓬生】 43

奈流保登乃夕徒久夜尔道乃本止与呂川乃事
なるほととの夕つく夜に道のほとよろつの事

於本之以天、於者寸累仁加多裳那久安連多流
おほしいて、おほするにかたもなくあれたる

家農己多知志計久毛里乃也宇那留越春起給
家のこたちしけくもりのやうなるをすき給

婦於保幾那留松耳藤農左起閑、里天月
ふおほきなる松に藤のさきかゝりて月

影耳奈比幾堂累風耳徒幾天左登尔本不可
影になひきたる風につきてさとにほふか

奈川可之久楚己者可登那幾加本利奈里橘尔加者利
なつかしくそこはかとなきかほりなり橘にかはり

天於可之希礼八左之以天給部流尔也那幾毛以多宇
ておかしければさしいて給へるにやなきもいたう

志多利天津以知尔毛左者良称八美多礼布之
したりてつちにもさはらねはみたれふし

堂利美之心知須留木多知可那止於本春八者也宇
たりみし心ちする木たちかなとおほすははやう

【蓬生】 44

己乃宮奈利氣利以登安八礼尔天於之登、女左
この宮なりけりいとあはれにておしと、めさ

勢給連以農己礼三川者閑、留御志乃比安利幾
せ給れいのこれみつはかゝる御しのひありき

耳遠久礼称八左婦良比氣利女之与世古、八比多知
にをくれねはさふらひけりめしよせこ、はひたち

乃宮楚可之那志可侍留登幾己遊己、仁安利之人
の宮そかしなしか侍るときこゆこゝにありし人

者末多也奈可武良无止婦良布部幾遠王左登毛能
はまたやなかむらんとふらふへきをわざとも

世武毛所世之加、累徒井天仁以利天世宇楚己
せむも所せしかゝるつゐてにいりてせうそこ

勢与与久堂川称人天遠宇知以天与人堂
せよよくたつね入てをうちいてよ人た

可部之天八於己那良無登能給古、尔八以登、奈可
かへしてはおこならむとの給こゝにはいと、なか

女末左累己呂尔天徒久、登於者之氣流尔
めまさるころにてつくくとおほしけるに

【蓬生】 45

比類祢乃夢仁己宮乃美衣給比希礼八左女天
ひるねの夢にこ宮のみえ給ひければさめて

以登奈己利可那之久於保之天毛利奴連多類
いとなこりかなしくおほしてもりぬれたる

比左之能者之徒可多於之能己者世天古、加之己能
ひさしのはしつかたおしのこはせてこ、かしこの

於末之比幾徒久呂者世奈登之川、礼以奈良春
おましひきつくろはせなとしつゝ、れいならず

与川幾堂末比天
よつきたまひて

奈起人城古婦留堂毛登乃比末那幾仁
なき人をこふるたものひまなきに

安礼多留軒農志川久左部楚不毛心久留之幾
あれたる軒のしつくさへそふも心くるしき

本止仁奈武安里希流己礼三川入天女久累く
ほとになむありけるこれみつ入てめくるく

人農遠登寸留加多也登三流尔以佐、閑乃人希
人のをとするかたやとみるにいさゝかの人け

【蓬生】 46

裳世須左礼八己楚由幾、能道尔見以類連登
もせずされはこそゆきゝの道に見いるれと

人春三計毛那幾物登思日天可遍利末以留保止尔
人すみけもなき物と思ひてかへりまいるほとに

月安可久佐之出堂累尔三礼者加宇之布多万
月あかくさし出たるにみればかうしふたま

者可里安気天寸多礼宇古久氣之起奈利王川
はかりあけてすたれうこくけしきなりわつ

可尔美川希多流心知於曾呂之久左遍於保由連
かみつけたる心ちおそろしくさへおほゆれ

登与里天己者川久礼八以登物不利堂流己惠尔
とよりてこはつくれはいと物ふりたるこ系に

天末川志者不幾越左起耳堂天、可連八堂礼
てまつしはふきをさきにたてゝ、かれはたれ

楚奈尔人曾止、婦奈能利之天侍従農君止幾
そなに人そとゝふなのりして侍従の君とき

古衣之比止仁堂以女武給者良武登以布楚
こえしひとにたいめむ給はらむといふそ

【蓬生】 47

連八外尔奈武毛能之給不左礼止於保之王久
れば外になむものし給ふされとおほしわく

末之起女奈無者部流登以婦己恵以多宇称比
ましき女なむはへるといふこゑいたうねひ

春起多礼登幾、之老人登幾、志利多利
すきたれとき、し老人とき、しりたり

宇知仁八於毛比毛与良寸加利幾奴須可多那留於止己
うちにはおもひもよらすかりきぬすかたなるおとこ

志能比也可尔毛天那之奈己也可那連八美那良八寸
しのひやかにもてなしなこやかなればみならず

奈利仁希流女尔天毛之幾川称奈登乃遍无希
なりにけるめにもしきつねなどのへんけ

尔也止於保由連登知可宇与里天堂之閑尔
にやとおほゆれとちかうよりてたしかに

奈武宇氣給者良末本之幾加者羅奴御安利
なむうけ給はらまほしきかはらぬ御あり

佐万奈良八堂川称幾古衣左世給遍幾御古、
さまならはたつねきこえさせ給へき御こ、

【蓬生】 48

路左之裳堂衣須奈武於者之末寸女流可之己
ろさしもたえずなむおはしますめるかしこ

与比毛遊幾春起可天尔登末良勢給部流遠以
よひもゆきすきかてにとまらせ給へるをい

閑、幾古衣左世武宇之呂也春久遠登以部八女毛
か、きこえさせむうしろやすくをといへは女も

宇知王良比天加者良世給御安利左満奈良八閑、流
うちわらひてかはらせ給御ありさまならはかゝる

安左知可者良越宇川呂比給者天八侍利奈无屋
あさちかはらをうつろひ給はては侍りなんや

堂、於之八可利天幾古衣左世給部閑之年遍
た、おしはかりてきこえさせ給へかし年へ

多累人農心尔毛堂久比安良之登能見女川
たる人の心にもたくひあらしとのみめつ

羅可那留与越己曾者美多末川里須己之侍□止
らかなるよをこそはみたてまつりすこし侍□と

也、久川之以天、登八寸加多利毛志川部幾無
や、くつしいて、とはすかたりもしつへきむ

【蓬生】 49

武徒可之希礼八与之く末川閑久奈武幾古衣
むつかしければよしくまつかくなむきこえ

左世無登天満以利奴奈登可以登比左之閑利徒
させむとてまいりぬなどかいとひさしかりつ

留以可尔楚普乃安登毛美衣奴与毛起農志計左
るいかにそ昔のあともみえぬよもきのしけさ

可那止能給部者志可く奈武堂登利与里天侍利
かなとの給へはしかくなむたとりよりて侍り

徒留侍従可遠者乃少将登以比侍之於以人奈无
つる侍従かをはの少将といひ侍しおい人なん

加者良奴己惠尔天者部利川留登安利佐万幾己
かはらぬこゑにてはへりつるとありさまさこ

遊以三之字安八礼耳閑、類之希起中仁奈尔
ゆいみしうあはれにかゝるしけき中になに

心知之天須久之給不良武以満、天登八左利
心ちしてすくし給ふらむいま、てとはざり

氣流与登和可御心農奈左計那左毛於本之
けるよとわか御心のなさけなさまおほし

【蓬生】 50

志良流以可、寸遍幾加、流志能比安利起毛加多
しらるいか、すへきかゝるしのひありきもかた

可流遍幾越可、累徒以天奈良天八衣堂知与良
かるへきをかゝるついでならてはえたちよら

之加者良奴安利佐万那良八希仁左己楚八安良
しかはらぬありさまならはけにさこそはあら

女登於之者可良流、人左満尔奈武登八能多末比
めとおしはからる、人さまになむとはのたまひ

奈可良婦登入給者武事猶徒、末之字於保左
なからふと入給はむ事猶つ、ましようおほさ

類由部安流御世宇楚己裳以登幾古衣末本之希
るゆへある御せうそこいときこえまほしけ

礼止美多末以之本登乃久知越曾佐毛末多加者
れとみたまいしほとのおちをそさままたかは

良寸八御川可比農堂知和川良者武毛以登遠之
らすは御つかひのたちわつらはむいとをし

宇於本之登、女徒己礼三川毛佐良尔八王氣左世
うおほしと、めつこれみつもさらにはわけさせ

【蓬生】 51

給布末之起与毛起農露希佐耳奈無者部流
給ふましきよもきの露けさになむはへる

露春己之者良八世天奈武以良勢堂末不遍幾
露すこしはらせてなむいらせたまふへき

登幾己遊連盤
ときこゆれは

堂川祢天毛和礼己楚登者女道毛那久
たつねてもわれこそとはめ道もなく

婦可起与毛起農毛登乃古、呂越止比止利古知
ふかきよもきものこゝろをとひとりこち

給天猶於利給部八御左起乃露遠馬乃武知之
給て猶おり給へは御さきの露を馬のむちし

天者良比徒、入堂天末川留安未楚、幾毛猶
てはらひつゝ、入たてまつるあまそ、きも猶

秋乃時雨女起天宇知楚、希八御可左也佐不良婦
秋の時雨めきてうちそ、けは御かさやさふらふ

己乃志多露八雨耳末左里天登幾己遊御左
このした露は雨にまさりてときこゆ御さ

【蓬生】 52

志奴幾乃寸曾八以多字楚本知奴利武可之堂仁
しぬきのすそはいたうそほちぬめりむかしたに

安流可那幾可那利之中門奈登末之天加多毛
あるかなきかなりし中門なとましてかたも

那久奈利天以利堂末不尔徒希天毛以登武登久
なくなりていらたまふにつけてもいとむとく

奈留越堂知末之里美流比止奈登楚心也須可利
なるをたちましりみるひとそ心やすかり

計留姫君八佐利登毛止未知須久之給部流心
ける姫君はさりとともとまちすくし給へる心

毛志流久宇礼之希連登以止者川閑之幾
もしるくうれしけれといとはつかしき

御安利佐万尔天堂以女武世無裳以登徒、末
御ありさまにてたいめむせむもいとつゝ、ま

之久於保之多里大式農北乃可多能堂天末
しくおほしたり大式の北のかたのたてま

徒利遠起之御曾登毛越裳古、呂由可寸於保左
つりをきし御そともをもこゝろゆかすおほさ

【蓬生】 53

礼之由可利仁見以連堂万八佐利希留越己乃
れしゆかりに見いたまはさりけるをこの

人々農加宇能御加良比川耳入堂利氣累可
人々のかうの御からひつに入たりけるか

以登奈徒可之起香之堂流遠太天末川里
いとなつかしき香したるをたてまつり

希礼八伊可、八世無仁幾可部給天加乃須、希
ければいか、はせむにきかへ給てかのす、け

多累御木丁比幾与勢天於八寸入堂末比天
たる御木丁ひきよせておはす入たまひて

登之比農遍多天尔毛心者可利八加者良寸奈無
とし比のへたてにも心はかりはかはらすなむ

思日也里幾古衣徒留越左之裳於止呂可比給八
思ひやりきこえつるをさしもおとろかひ給は

奴宇良女之左仁以末、天心美幾古衣徒留遠杉
ぬうらめしさにいま、て心みきこえつるを杉

奈良奴己堂知能志累左仁盈春起天奈武末計
ならぬこたちのしるさにえずきてなむまけ

【蓬生】 54

幾古衣仁希流止天加多比良遠須己之可起屋利
きこえにけるとてかたひらをすこしかきやり

給部連八礼以乃以登徒、末之希仁止美尔毛
給へればれいのいとつ、ましけにとみにも

以羅部幾古衣給八寸加久八可利分入堂末遍留
いらへきこえ給はずかくはかり分入たまへる

閑安左可良奴尔於毛比於己之天楚保乃加耳
かあさからぬにおもひおこしてそほのかに

幾己衣以天給比希留閑、累草可久礼耳
きこえて給ひけるか、る草かくれに

須久之堂末比計留年月乃安八礼毛於呂
すくしたまひける年月のあはれもおろ

加奈良春満多加八良奴心奈良比耳入農御古、呂
かならずまたかはらぬ心ならひに人の御こ、ろ

農中裳堂士利志良寿那可良王氣入侍利
の中もととりしらすなからわけ入侍り

川留露希左奈止越以可、於保春登之比農遠
つる露けさなをいか、おほすとし比のを

【蓬生】 55

古堂利八者多奈遍天能世仁於保之遊留寸良
こたりははたなへての世におほしゆるすら

武以万与利後農御心尔加那者佐良武比之尔
むいまより後の御心になはさらむいひしに

堂可婦川美毛於宇部幾奈登左之裳於保左礼奴
たかふつみもおうへきなとさしもおほざれぬ

事奈左計く之宇幾己衣奈之給布事毛安
事なさけくしうきこえなし給ふ事もあ

女利堂知登、末利給者无裳登己呂農佐万
めりたちと、まり給はんもところのさま

与里波之女末者遊幾御安利佐万奈礼八川幾く
よりはしめまはゆき御ありさまなればつきく

之宇能多末比須久之天以天堂末比奈無登春
しうのたまひすくしててたまひなむとす

比幾宇遍之奈良称登松農古多可久奈里耳
ひきうへしならねと松のこたかくなりに

気累年月農本登毛安八礼尔夢乃也宇那留
ける年月のほどもあはれに夢のやうなる

【蓬生】 56

御身乃安利佐万裳於保之徒、希計留
御身のありさまもおほしつ、ける

婦知那三乃宇知須幾加多久美衣川留八
ふちなみのうちすきかたくみえつるは

末川己楚也登乃志留部奈利氣礼可楚婦連
まつこそよとのしるへなりけれかそふれ

者己与那宇徒毛里奴良无閑之宮己仁加八利
はこよなうつもりぬらんかし宮こにかはり

尔気累事乃於保可利希流裳佐万く安者
にける事のおほかりけるもさまくあは

連奈武以万能止可耳楚比奈乃别尔於止呂部
れなむいまのとかにそひなの別におとろへ

之世農物可多利毛幾古衣徒久寸遍幾年
し世の物かたりもきこえつくすへき年

遍多末遍羅无春秋農久良之加多左奈止毛
へたまへらん春秋のくらしかたさなとも

堂礼耳加者宇礼部給八无登宇良毛那久於保
たれにかはうれへ給はんとうらもなくおほ

【蓬生】 57

遊留毛加川者安也之字奈武奈登幾古衣給部八
ゆるもかつはあやしうなむなときこえ給へは

登之越遍天末川志留之奈起和可屋止遠
としをへてまつしるしなきわかやとを

花農堂与利仁春起奴者可利可登志能比也可
花のたよりにすきぬはかりかとしのひやか

尔宇知美之呂幾堂末部累氣八比毛袖乃可毛
にうちみしろきたまへるけはひも袖のかも

武可之与利盤祢比末左利給部流尔也登於保
むかしよりはねひまさり給へるにやとおほ

左流月入可多尔奈利天西乃川万登乃安幾
さる月入かたになりて西のつまとのあき

堂累与里佐者留部幾和多殿堂川屋毛那久
たるよりさはるへきわた殿たつやもなく

軒農徒末毛能已利奈氣礼八以登者那也可尔左之
軒のつまものこりなければいとほなやかにさし

以利堂礼八安堂利く美由留仁無可之仁可者
いりたればあたりくみゆるにむかしにかは

【蓬生】 58

羅奴御志川羅比農佐万奈登忍草丹
らぬ御しつらひのさまなど忍草に

屋川礼堂累宇遍能美留女与里八三也比閑耳
やつれたるうへのみるめよりはみやひかに

見由留越無可之物可多里仁塔古保知堂累
見ゆるをむかし物かたりに塔ごほちたる

人裳安利希流遠於保之安者寸累尔於那
人もありけるをおほしあはするにおな

之佐万尔天登之布利仁氣流毛安八礼奈利
しさまにてとしふりにけるもあはれなり

比多婦留仁物徒、美之堂流希八比乃左寸加尔
ひたふるに物つゝみしたるけはひのさすかに

安天也可那留毛心尔久、於保左礼天左流可多尔天
あてやかなるも心にくおほされてさるかたにて

王寸礼之登心久流之久於毛比之遠年己呂
わすれしと心くるしくおもひしを年ころ

左満く能物於毛比耳本連く之久天遍多天
さまくの物おもひにほれくしてへたて

【蓬生】 59

川留本止徒良之登於毛八礼川良武登以止越之
つるほとつらしとおもはれつらむといをし

久於保寸閑乃花地留里毛安左也可尔以末女
くおほすかの花ちる里もあさやかにいまめ

閑之宇奈登八者那屋幾堂末者奴所耳天
かしうなどははなやきたまはぬ所にて

御女宇徒之己与那可良奴耳登可於保宇加久連
御めうつしこよなからぬにとかおほうかくれ

仁氣利未徒利己氣以奈止乃本止御以曾幾登毛
にけりまつりこけいなとのほど御いそきとも

尔古止川希天人農堂天末川里堂留物色く
にことつけて人のたてまつりたる物色く

仁於保可類遠佐留部幾可起利御心久者部給不
におほかるをさるへきかきり御心くはへ給ふ

中尔毛己乃宮尔波己末也可尔於本之与里天無
中にもこの宮にはこまやかにおほしよりてむ

徒末之起人く爾於保世事給比之毛部止毛
つましき人くにおほせ事給ひしもへとも

【蓬生】 60

奈登川可者之天与毛起者良八世女久利能美久流
なとつかはしてよもきはらはせめくりのみくる

之幾仁以多可起止以不物宇知加多女川久呂者
しきにいたかきといふ物うちかためつくるは

勢給不加宇堂川祢以天給部利登幾、徒多
せ給ふかうたつねいて給へりとき、つた

遍无尔川希天和可御多女免武本久奈氣連
へんにつけてわか御ためむほくなけれ

者和多利堂末不事八那之御布美以登己末也
はわたりたまふ事はなし御ふみいとこまや

可尔可起給比天二条院知可起所遠徒久良世
かにかき給ひて二条院ちかき所をつくらせ

給不遠楚己仁奈无王多之堂天万徒留遍幾
給ふをそこになんわたしたてまつるへき

与呂之幾王良八部奈登毛登女左婦良者世給部奈
よろしきわらはへなともめさふらはせ給へな

登人く乃字部末天於保之也里徒、止婦良比
と人くのうへまでおほしやりつ、とふらひ

【蓬生】 61

幾古衣給遍八加久安也之起与毛起乃毛登耳
きこえ給へはかくあやしきよもきものもとに

者遠幾所奈起末天女者宇毛空遠安不幾
はをき所なきまで女はうも空をあふき

天奈武楚那多仁無起天与呂己比幾古衣計留
てなむそなたにむきてよろこひきこえける

奈氣乃御寸左比尔天毛於之那部多累与能徒
なけの御すさひにてもおしなへたるよのつ

祢農人越八女登、免美多天堂末八寸世耳
ねの人をはめと、めみたてたまはず世に

須己之己礼八登於保衣古、知仁止末累婦之
すこしこれはとおほえこゝちにとまるふし

安流阿多利越堂川祢与里給布物登人乃
あるあたりをたつねより給ふ物と人の

志利多流尔加久比幾堂可部奈仁事毛奈能女尔
しりたるにかくひきたかへなに事もなぬめに

堂仁安良奴御安利佐万遠毛能女可之以天堂
たにあらぬ御ありさまをものめかしいてた

【蓬生】 62

末不者以可那利希流御心耳可安利氣武己礼毛無
まふはいかなりける御心にかありけむこれもむ

可之能契奈女利閑之以末盤可起利登安那徒利
かしの契なめりかしいまはかきりとあなつり

者天、左満く、尔末与比知利安可礼之宇遍志毛
はて、さまく、にまよひちりあかれしうへしも

農人く、我毛く、末比良無登安良曾比以部流
の人く、我もく、まひらむとあらそひいへる

人蒙安利心者部奈登八多武毛礼以多幾末天与久
人もあり心はへなとはたむもれいたきまでよく

於者寸流御安利佐万仁心也春久奈良比天古止
おはする御ありさまに心やすくならひてこと

奈累古登奈起奈万須里也宇奈登屋宇能家
なることなきなますりやうなとやうの家

耳安流人者奈良八寸者之多奈起心知寸累
にある人はならはすはしたなき心ちする

毛阿利天宇知川希能心美衣仁満以里可部流
もありてうちつけの心みえにまいりかへる

【蓬生】 63

君者以尔之遍尔毛満左利堂累御以幾本以乃
君はいにしへにもまさりたる御いきほいの

保登尔天物農於毛比也里毛満之天楚以
ほとにて物のおもひやりもましてそい

給比耳氣礼八己末也可耳於保之遠起天
給ひにければこまやかにおほしをきて

堂累仁尔本比以天、宮能宇知也宇く人免
たるにほひいて、宮のうちやうく人め

美衣木草乃者毛堂、須己久安八礼尔美奈
みえ木草のはもた、すこくあはれにみな

左礼之越屋利水可起者良比世無左以農
されしをやり水かきはらひせむさいの

毛登堂知裳須、之宇志那之奈登志天古止
もとたちもす、しうしなしなどとしてこと

那留於保衣那幾志毛氣以之乃己止尔川可遍
なるおほえなきしもけいしのことにつかへ

未本之幾八加久御心登、女天於保左累、事
まほしきはかく御心と、めておほざる、事

【蓬生】 64

奈尔利登美止利天御氣之起給者利津、川以
なめりとみとりて御けしき給はりつ、つい

世宇之徒可不末川留布多止世者可利己乃布留
せうしつかふまつるふたとせはかりこのふる

宮耳奈可女堂末比天比无可之乃院止以婦
宮になかめたまひてひんかしの院といふ

所尔奈無後者和多之堂天末川里給希留
所になむ後はわたしたてまつり給ける

堂以女无之給不事奈登者以登可多希礼登
たいめんし給ふ事などはいとかたけれと

知可起志女能本止耳天大可多仁毛和多利給耳
ちかきしめのほとにて大かたにもわたり給に

佐之乃楚幾那登之給川、以登安那川良八之
さしのそきなどし給つ、いとあなつらはし

氣仁毛天那之幾古衣堂末八寸加乃大仁農
けにもてなしきこえたまはずかの大にの

北乃方能本利天於止呂幾於毛部累佐万侍従
北の方のほりておとろきおもへるさま侍従

【蓬生】 65

閑宇礼之幾物乃以万志者之末地幾己衣佐
かうれしき物のいましはしまちきこえさ

里氣累心安左、越者徒可之宇思部流本止奈登
りける心あさ、をはつかしう思へるほとなど

遠以満春己之登八寸加多利裳世万保之希礼
をいますこしとはすかたりもせまほしけれ

登以止加之羅以多宇宇累佐久物宇氣礼八
といとかしらいたううるさく物うければ

奈無以末又毛川以天安良武於利耳於毛比以
なむいまもついであらむおりにおもひい

天、奈武幾己遊部幾止楚
て、なむきこゆへきとぞ

関
屋

大正大学本『源氏物語』「蓬生」
「関屋」の翻刻

三七

【関屋】 5

以与乃寸氣止以比之者故院可久礼左世給
いよのすけといひしは故院かくれさせ給

天又乃止之比多知丹奈利天久多里之可八
て又のとしひたちになりてくたりしかは

加乃者、幾木毛以左奈者礼尔氣利春満
かのは、き木もいさなはれにけりすま

乃御堂比為毛者流可尔幾、天人志礼春於
の御たひゐもはるかにきゝて人しれすお

毛比也里幾古衣奴丹之毛安良佐里之可登
もひやりきこえぬにしもあらさりしかと

徒多部幾己遊遍幾与寸可堂尔奈久天徒
つたへきこゆへきよすかたになくてつ

久者祢農山遠吹己寸風毛宇起多留心知之
くはねの山を吹こす風もうきたる心ちし

天以佐、可乃徒多部多尔奈久天止之月可左奈利
ていさゝかのつたへたになくてとし月かさなり

尔氣利可起運留事毛奈可里之御多比并
にけりかきれる事もなかりし御たひゐ

【関屋】6

奈礼止京尔加部利寸見給天又乃止之乃
なれと京にかへりすみ給て又のとしの

秋曾比多知者乃本里介流世起入日志毛己
秋そひたちはのほりけるせき人日しもこ

乃殿以之山丹御久八无者多之仁末宇天給比
の殿いし山に御くはんはたしにまうて給ひ

氣利京与利可乃幾能可見奈止以比之己止毛
けり京よりかのきのかみなといひしことも

武可部耳幾多流人く己乃殿閑久満宇天
むかへにきたる人くこの殿かくまうて

給不遍之登徒氣、連者美知能程左波可之
給ふへしとつけ、れはみちの程さはかし

可利奈无毛乃楚止天末多安可月与利以曾幾
かりなんものそとてまたあか月よりいそき

氣留遠女車於保久止古呂世宇遊留起久
けるを女車おほくところせうゆるきく

累耳比多氣奴宇知以天乃者万久流程耳
るにひたけぬうちいてのはまくる程に

【関屋】7

止乃者安王多山古衣給飛奴止天御世武農
どのはあわた山こえ給ひぬとて御せむの

人く美知毛左利安部須幾古三奴連盤
人くみちもさりあへすきこみぬれば

世起山耳美奈於利為天古、関之己能春起
せき山にみなおりぬてこ、かしこのすき

乃之多尔車止毛加起於呂之己可久礼耳
のしたに車ともかきおろしこかくれに

為関之己満里天春久之堂天末川留久留満奈
ぬかしこまりてすくしたてまつるくるまな

止加多部者遠久羅可之左起丹多天奈止志多礼
とかたへはをくらかしさきにたてなとしたれ

登奈越流以日呂久美遊久留満止遠者可利曾
となをるいひろくみゆるまとをはかりそ

袖久知毛乃、以呂安比奈止毛毛利以天、美衣多留
袖くちもの、いろあひなとももりいて、みえたる

為中比寸与之安里天左以宮能御久多利奈
ぬ中ひすよしありてさい宮の御くたりな

【関屋】 8

仁曾也字乃於利能毛乃見車於本之以天良流にそやうのりのもの見車おほしいてらる

殿毛可久世耳左可部以天給女川良之左尔加春殿もかく世にさかへいて給めつらしきにかす

毛奈起己世无止毛美那女止、女堂里九月もなきこそんともみなめとゝめたり九月

徒己毛利奈礼者毛見知乃以呂く古起末勢つこもりなれはもみちのいろくこきませ

志毛可礼乃草武羅く於可之字見衣王多留耳しもかれの草むらくおかしう見えわたるに

世起屋与利左久川連以天堂流多比寸可多せき屋よりさとくつれてたるたひすかた

止毛乃色く乃安遠能徒幾く志幾奴以毛ともの色くのをのつきくしきぬいも

乃久、里曾女能左満毛左留可多仁於可之字美遊のくゝりそめのさまもさるかたにおかしうみゆ

御車者春多礼於呂之給天加乃武可之能己君御車はすたれおろし給てかのむかしのこ君

【関屋】 9

以万者右衛門乃寸計奈留遠女之与世天介不いまは右衛門のすけなるをめしよせてけふ

乃御世起武可部者盈於毛比春天給八之奈止乃の御せきむかへはえおもひすて給はしなどの

給不御心能字知以止安八礼耳於保之以徒留古止於給ふ御心のうちいとあはれにおほしいつることお

保可礼止於字楚宇丹天可比奈之女毛人志礼春ほかれとおうそうにてかひなし女も人しれす

武可之乃己止王春礼祢八止利可部之天毛乃安者礼奈利むかしのことわすれねはとりかへしてもあはれなり

遊久止久登世起止女可多起奈三多遠也
ゆくどくとせきとめかたきなみたをや

堂衣奴志水止人者美留良武志利給八之可之止たえぬし水と人はみるらむえしり給はしかしと

於毛不尔以止可比奈之以之山与利以天給婦御武可部尔おもふにいとかひなししい山よりいて給ふ御むかへに

右衛門乃寸計万以里天曾満可利春起之関之右衛門のすけまいりてそまかりすきしかし

【関屋】 10

己万里奈止申須武可之玉羅八丹天以止武徒方
こまりなと申すむかしわらはにていとむつま

志宇羅宇堂起毛乃尔之給比之可者加宇婦里
しうらうたきものにし給ひしかはかうふり

奈止衣之末天已乃御止久丹可久礼多利之遠
なとえしまてこの御とくにかくれたりしを

於保衣奴与乃左者起安里之古呂毛乃、起古衣
おほえぬよのさはきありしころもの、きこえ

耳者、可利天比多知仁久多利之遠曾寸古之
には、かりてひたちにくたりしをそすこし

心遠幾天止之己呂八於保之介礼止以呂丹毛
心をきてとしころはおほしけれというにも

以多之給者寸武可之乃也宇丹已楚安良称止奈越
いたし給はすむかしのやうにこそあらねとなを

志多之起以遍人乃宇知尔八加曾部堂万比介利幾乃
したしきいへ人のうちにはかそへたまひけりきの

可見止以比之毛以満者加宇知能可三仁曾奈利耳介留
かみといひしもいまはかうちのかみにそなりにける

【関屋】 11

曾乃遠止宇登乃右近乃曾宇止気天御止毛
そのをとうとの右近のそうとけて御とも

仁久多利之遠曾止里王起天奈之以天給比介礼
にくたりしをそとりわきてなしいて給ひけれ

者曾礼尔楚多礼毛於毛比志利天奈止天春古之毛
はそれにそたれもおもひしりてなとてすこしも

世丹志多可不心遠徒可比気武奈止於毛比以天介留
世にしたかふ心をつかひけむなとおもひいてける

春気女之与世天御世宇曾己安里以万者
すけめしよせて御せうそこありいまは

於本之王春礼奴遍幾己止遠心奈可久毛於八寸留
おほしわすれぬへきことを心なかくもおほする

可那止於毛比為多利一日者知幾里志良礼之遠
かなとおもひぬたり一日はちきりしられしを

左者於保之志里気武也
さはおほししりけむや

和久良者尔由幾安不道遠堂乃見之毛
わくらはにゆきあふ道をたのみしも

【関屋】 12

奈越可比奈之也志本奈良奴宇見世起毛里乃
なをかひなしやしほならぬうみせきもりの

左毛宇良屋万志具女左滿之関里之可那登
さもうちやましくめさましかりしかなと

安里止之古呂乃止多衣毛宇比く志久奈利尔
ありとしころのとたえもうひくしくなりに

氣礼止心仁者以徒止奈久堂、以万乃心地春留
けれど心にはいつとなくたゝいまの心地する

奈良比丹奈武春幾く志宇以止、仁久末礼无
ならひになむすきくしういとゝにくまれん

也止天給部連八可多之氣奈久天毛天以幾天
やとて給へればかたしけなくてもいきて

猶幾古衣給部武可之尔者寸古之於保之乃久
猶きこえ給へむかしにはすこしおほしのく

己止安良武止於毛比給不留尔於那之屋宇奈留
ことあらむとおもひ給ふるにおなしやうなる

御心乃奈川可之左奈武以止、安里可多起春佐比
御心のなつかしさなむいとゝありかたきすさひ

【関屋】 13

古止、楚与宇奈幾古止、於毛部止衣已楚寸久
ことゝ、そよなきことゝおもへとえこそすく

与可尔幾古衣加部左称女丹天者滿氣幾己衣
よかにきこえかへさね女にてはまけきこえ

給徒良武尔川見由留左礼奴部之奈止以不万八末之
給つらむにつみゆるされぬへしなといふいまはまし

天以止者徒可之宇与呂津乃古止宇井く之幾
ていとはつかしうよろつのことうぬくしき

心知春礼止女川良之起尔也衣志乃者連左利
心ちすれとめつらしきにやえしのはれさり

氣武
けむ

安不左可乃関也以可奈流世起奈礼者
あふさかの関やいかなるせきなれば

志介起奈氣幾能中遠王久羅无遊女乃也宇
しけきなけきの中をわくらんゆめのやう

耳奈無登幾古衣堂里安八礼毛徒良左毛
になむときこえたりあはれもつらさも

【関屋】 14

王春礼奴布之登於保之遠可礼多留人奈礼者
わすれぬふしとおほしをかれたる人なれば

於里く八猶乃多末比宇古可之介利閑ゝ流
おりくは猶のたまひうこかしけりかゝる

保止尔己乃比多知能可見於以乃徒毛利尔也奈
ほとにこのひたちのかみおいのつもりにやな

屋万志久能三志天毛乃心本曾可利介礼八子止毛
やましくのみしてもの心ほそかりければ子とも

耳堂ゝ己乃君乃御古止遠乃見以比遠起天与
にたゝこの君の御ことをのみいひをきてよ

呂津乃事堂ゝ己乃御心耳能三万可世天
ろつの事たゝこの御心にのみまかせて

安利徒留世尔八加者羅天徒可宇満川連止乃三
ありつる世にはかはらてつかうまつれとのみ

阿氣久礼以比介礼女君心宇起守久世安利天
あけくれいひけり女君心うきすくせありて

己乃人耳佐部遠久礼天以可奈留左満尔者不
この人にさへをくれていかなるさまにはふ

【関屋】 15

礼末止不遍幾仁可安良武止於毛比奈氣幾
れまとふへきにかあらむとおもひなげき

給不遠美留耳以乃知能可幾利安流毛乃奈礼八
給ふをみるにいのちのかきりあるものなれば

於之美止ゝ武部幾加多毛奈之以可天可己能人
おしみとゝむへきかたもなしいかてかこの人

農御堂女仁乃古之遠久太末之為毛可那王可
の御ためにのこしをくたましぬもかなわか

子止毛乃心毛志良奴遠止宇之呂女多宇加那之
子どもの心もしらぬをとうしろめたうかなし

幾古止尔以比於毛部止心尔衣止ゝ女奴毛乃
きことにいひおもへと心にえとゝめぬもの

丹天宇世奴志八之己楚左乃多末比之毛乃遠
にてうせぬしはしこそさのたまひしものを

奈止奈左氣徒久礼止宇者部己楚安礼徒良幾
なとなさけつくれとうはへこそあれつらき

古登於保可利登安流毛可ゝ類毛世能己登
ことおほかりとあるもかゝるも世のこと

【関屋】 16

者利奈礼者身日止川乃宇起事仁天奈計幾
はりなれは身ひとつのうき事にてなけき

安可之久良須堂、古乃加字知能可三乃三曾武可
あかしくらすた、このかうちのかみのみそむか

志与利寸起心安利天春古之奈左計可利介流
しよりすき心ありてすこしなさけかりける

安者礼尔乃多末比遠起之可寸奈良須止毛於本之
あはれにのたまひをきしかすならずともおほし

宇止満天乃多末者世与那止徒以曾宇志与利
うとまてのたまはせよなとついそうしより

天以止安左満之幾心能見衣氣礼者宇起寸久
ていとあさましき心の見えければうきすく

世安流身仁天加久以幾止満利天者天く
せある身にてかくいきとまりてはてく

者女徒良之起已止、毛遠幾、曾婦留可那止
はめつらしきこと、もをき、そふるかなと

人志連寸於毛比志利天人耳左奈武登毛
人しれすおもひしりて人にさなむとも

【関屋】 17

志良世天安万仁奈利尔介利安留人く、以婦可比
しらせてあまになりにけりある人く、いふかひ

奈之止於毛比奈計久加三毛以登徒羅宇遠能
なしとおもひなげくかみもいとつらうをの

連越以止飛給不保止仁乃古利能御与者比
れをいとひ給ふほどにのこりの御よはひ

者於保久毛乃志給不羅无以可天可春久之給不
はおほくものし給ふらんいかてかすくし給ふ

遍幾奈止安以奈乃左可志羅也奈止曾者部
へきなどあいなのさかしらやなどそはへ

類女流
るめる

【関屋】
18

大正大学本『源氏物語』「蓬生」
「関屋」の翻刻

【関屋】
19

或人所望之間不顧禿翰終書
功訖

左槐臣（花押）

四五